

健やか連鎖

旭野高等学校 2年
岩下 真子

高校と家との道のりの中に公園がある。そして時々、子どもたちが遊んでいる様子を見かけることがある。親や友人とボール遊びをしたり、駆けまわったりしている様子を見ると、私もそうだったなと思い、懐かしく感じる。

私は小学生の頃、学校が終わると毎日のようにその公園に行って同級生と遊んでいた。学校で習った鉄棒の練習をしたり、虫を捕ったりしたのを覚えている。年齢など気にせず友達の知り合いや兄妹と一緒に遊んだり、接点がない人とさえ遊んだりしたこともあった。公園にはもちろん子どもたちだけでなく大人もいる。散歩の休憩に来た人や、誰かの親、犬の散歩をする人など様々だ。大人たちの中には私たちと遊んでくれたり話してくれたりする人もいた。遊具を回してくれたこと、植物を使った遊びを教えてくれたこと、犬と一緒に遊ばせてくれたことなど挙げればキリがないほど色々なことをしてもらった。学校から帰って、公園で遊んで、ご飯を食べて、寝る支度をする。小学校時代はそういう生活サイクルができていた。今思うと、あのときの自分は「健やか」という言葉がピッタリだと思う。「健やか」という字を見てもみると、「人」と「建」てるから成っている。考えてみれば確かに、友達、親、地域の人など色々な人と積み上げてきたものが当時の健やかな生活につながっていた気がする。

中学校に上がるといつの間にか公園で遊ぶ回数が減り、高校生となった今はもう公園に行くことも減多になく、当時一緒に過ごした人と会うこともほとんどなくなってしまった。教えてもらった花冠のつくり方も、植物の名前ももう忘れてしまっているかもしれない。しかし、色々な人と話したり笑いあったりしたあの瞬間は消えていないし、今でも思い出すことができる。細かく何をしたか

を覚えていなくても、楽しかったという漠然とした記憶として残り続けているのだ。そしてたまに帰り道で公園の子どもたちを見て思い出す。すると不思議と少しだけ気分が上がったような感じがする。だから、楽しかった過去は確実に今に良い影響を与えているし、心が帰る場所にもなっているのだと思う。そう思うと、この先も楽しく日々を過ごして、未来を支えてくれるような過去をたくさんつくっていきたいという気になる。それに、かつての自分がしてもらったことを次は自分が下の世代の人たちに与えていく番が近づいているのだと感じる。上の世代が私たちの世代の健やかな成長を支えてくれたように、私たちの世代も下の世代の健やかな成長を支える。この健やかな連鎖をつくっていくことが、健やかな社会への一歩だと思う。最近子どもたちと関わることがほとんどなく、どう接すればいいのかも今一つわかっていない。しかし自分がそうだったように、笑いあうことや協力しあうことは健やかにつながるのであると思う。だから、健やかな連鎖が途切れないように、当時の自分と過ごしてくれた大人たちのようなあたたかい態度を身につけられるようにしていきたい。